

第3期度会町人口ビジョン

(案)

令和8年3月 度会町

目次

| | | |
|----------|-----------------------------|-----------|
| 1 | はじめに | 1 |
| | (1) 人口ビジョンの更新にあたって | 1 |
| | (2) 人口ビジョンの位置づけ | 1 |
| 2 | 度会町の人口の現状分析 | 2 |
| | (1) 度会町の人口動向分析 | 2 |
| | (2) 自然増減の要因分析 | 7 |
| | (3) 社会増減の要因分析 | 11 |
| | (4) 町内産業の状況 | 14 |
| | (5) 将来推計からみる人口動向の分析 | 18 |
| | (6) 現状分析のまとめ | 21 |
| 3 | 度会町における人口の将来展望 | 22 |
| | (1) 推計パターンの考え方 | 22 |
| | (2) 推計パターンの比較 | 23 |
| | (3) 将来人口のめざす方向 | 25 |

1 はじめに

(1) 人口ビジョンの更新にあたって

平成 26 年に、人口減少と東京一極集中の課題に国を挙げて取り組むため、人口の現状と将来の姿を示し今後めざすべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」および今後 5 か年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が国において策定されました。各都道府県および市区町村においても「人口ビジョン」や「地方版まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、持続可能なまちの実現に向けて、地域特性を活かした取り組みが進められています。

第 1 期の総合戦略が策定されてから 10 年が経過し、その間、国立社会保障・人口問題研究所（社人研）において新たな将来推計がなされ、また、国は新たに「地方創生 2.0」として、人口減少を受け止めながらの地域の発展に向けた地方創生のあり方について示したところです。デジタルをはじめとした新しい時代の流れを活用しつつ、これまでの成果を検証・精査しながら、継続的に地方創生の取り組みを進めていくことが求められています。

(2) 人口ビジョンの位置づけ

人口ビジョンは、本町における人口の現状を分析するとともに、人口に関する認識を住民と共有しながら、今後めざすべき将来の方向性と人口の将来展望を提示するものです。

また、度会町総合戦略においても、人口ビジョンと同時に見直しを進めており、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた効果的な施策を企画立案するうえで、人口ビジョンとの整合性を図っています。

2 度会町の人口の現状分析

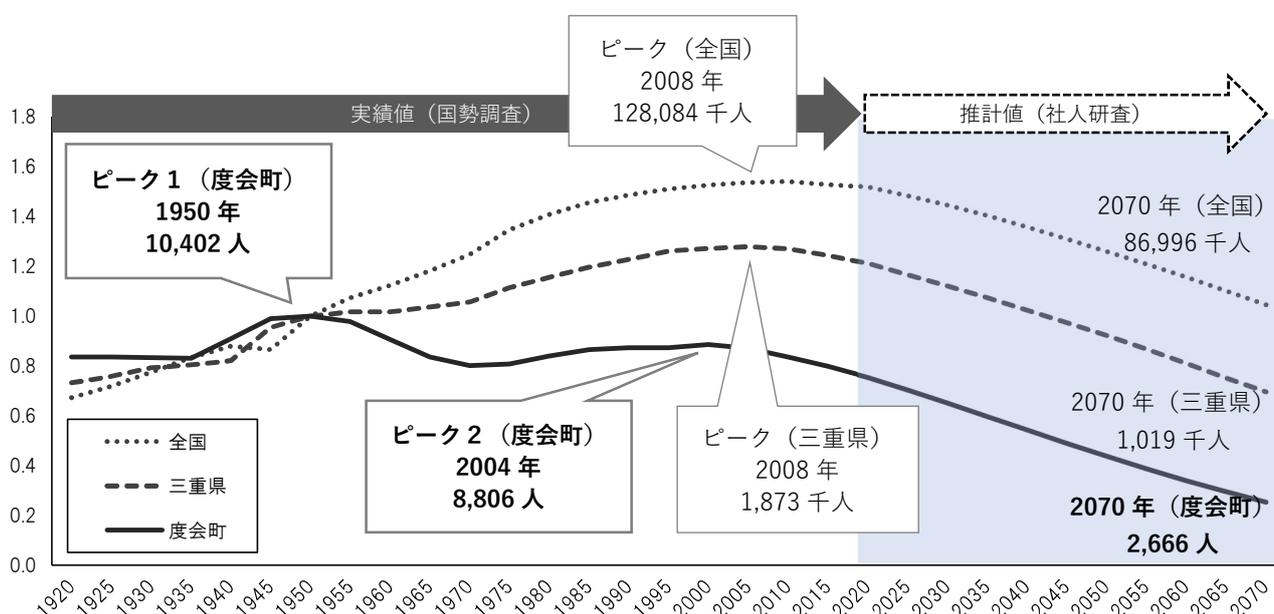
(1) 度会町の人口動向分析

① 総人口の推移と将来推計

本町の総人口は、1950年から1970年まで減少しましたが、その後は緩やかな増加に転じています。しかし、2004年をピークに減少に転じており、現在に至るまで減少が続いています。

人口減少は全国的な現象であり、全国および三重県でも2008年より減少に転じています。社人研の将来推計によれば、今後も減少が続くと推計されており、2070年時点で全国は約8,700万人、三重県は約100万人、本町は2,666人になる予測となっています。

図表1 | 総人口の推移と将来推計（1950年を1とした場合）



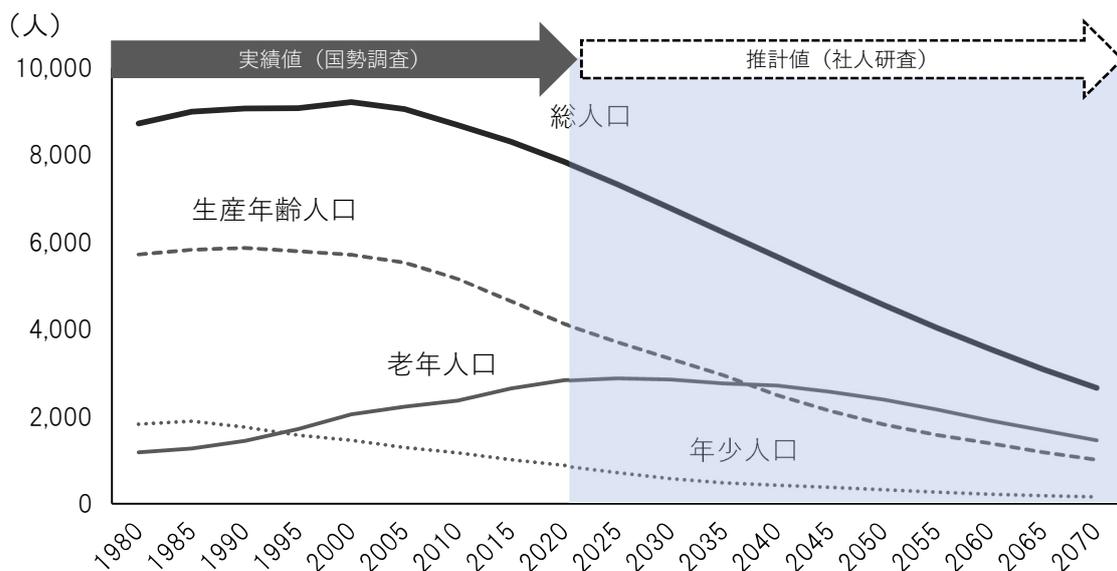
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

②年代別人口構成と推計

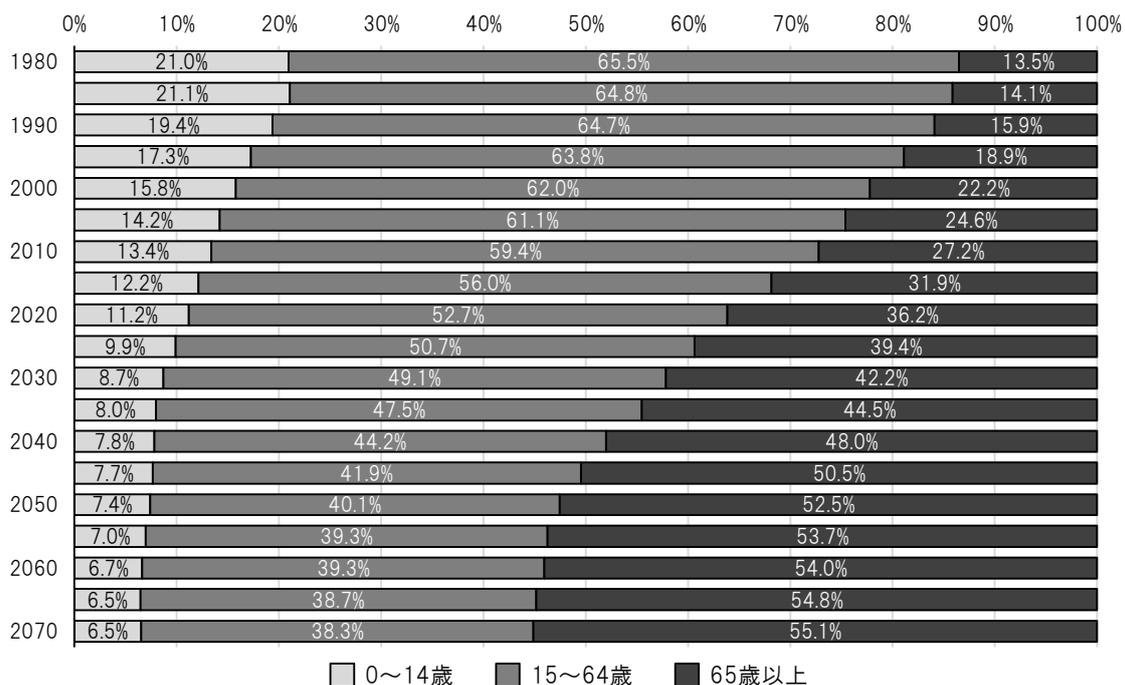
年代別人口の推移をみると、生産年齢人口（15～64歳）は1990年から減少が始まり、今後は減少の速度が速まると推計されていますが、老年人口（65歳以上）もまた2025年より減少に転じる推計となっています。また、年少人口（0～14歳）は1985年から減少しており、今後も減少が続くと推計されています。

年代別人口構成比率の推移をみると、老年人口の割合は急激に上昇し、55%以上まで上昇が継続すると推計されています。

図表2 | 年代別人口の推移と将来推計



図表3 | 年代別人口構成比率の推移



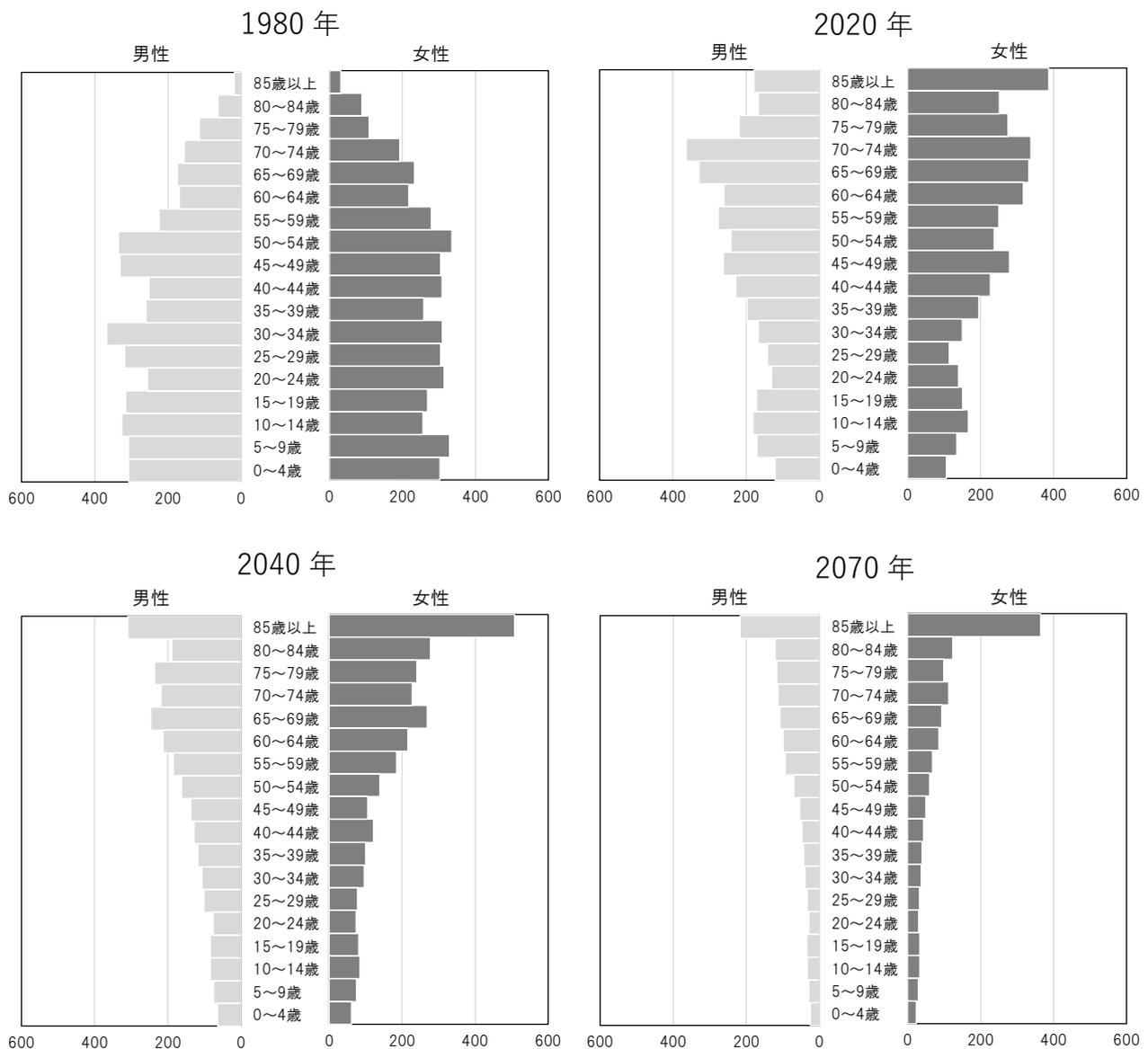
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

③人口構造の人口ピラミッドによる比較

人口ピラミッドで人口構成の推移をみると、1980年頃には50歳代以下の比較的若い年齢層が多い構成になっており、2020年では60歳代以上の高齢層が多い構成になっています。

2020年時点の人口構造の特徴として①20歳代人口の急激な縮小、②前期高齢者となった団塊の世代（主に65～74歳）、③後期高齢者の増加が挙げられます。社人研推計では2020年以降もこの傾向が続くと予想されており、ピラミッド底部（若年層）の減少と上部（老年層）の増加の進展により、後期高齢者が人口の大部分を占める人口構造が見込まれています。

図表4 | 人口ピラミッドの推移



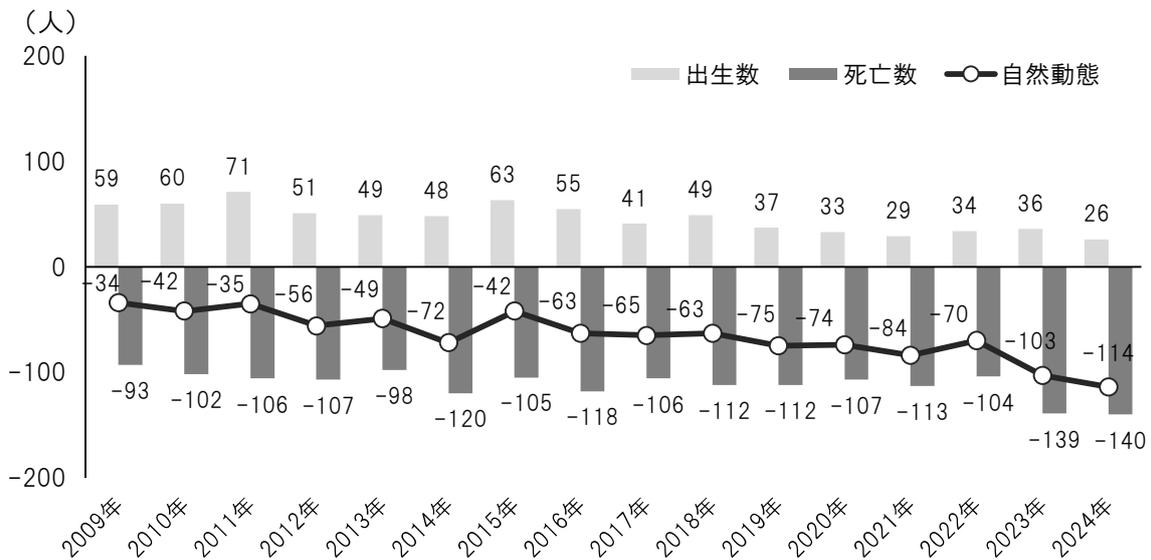
出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所

④出生・死亡・転入・転出の推移

出生と死亡の推移（自然動態）についてみると、継続して死亡数が出生数を超過する状況となっています。現状として、出生数の減少と死亡数の増加が進んでおり、自然動態はマイナス方向に拡大しつつあります。

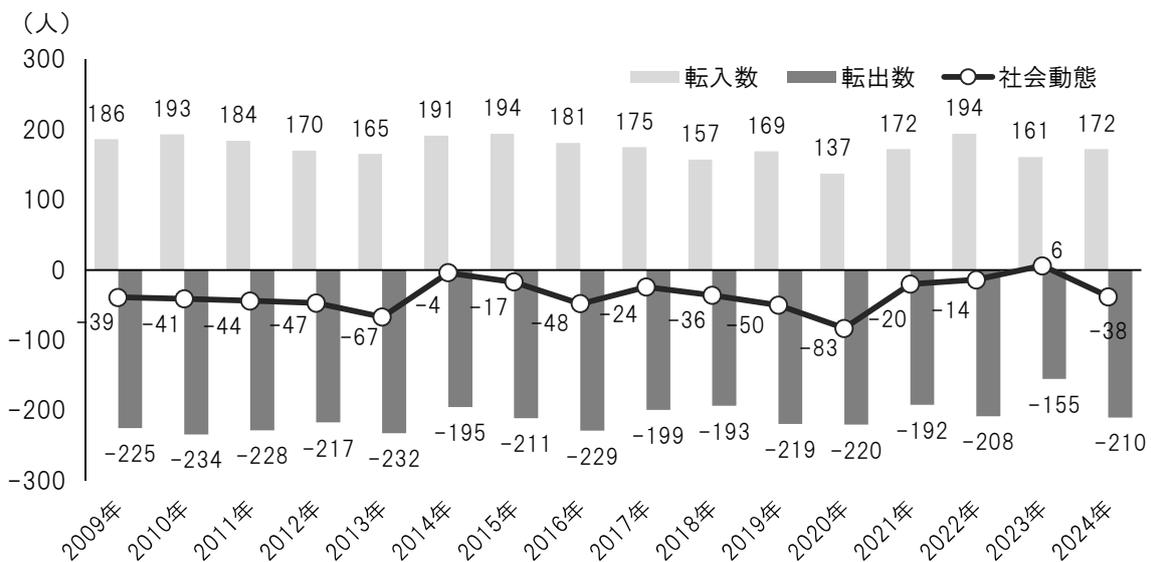
転入と転出の推移（社会動態）についてみると、年によって規模に差はあるものの、転出数が転入数を上回る状況が続いていました。一方で、近年は転出数が減少傾向にあり、社会動態は改善しつつあります。2023年には、転入数が転出数を上回るなど、人口減少対策の効果が表れている可能性がうかがえます。

図表5 | 出生・死亡及び自然動態の推移



出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

図表6 | 転入・転出及び社会動態の推移

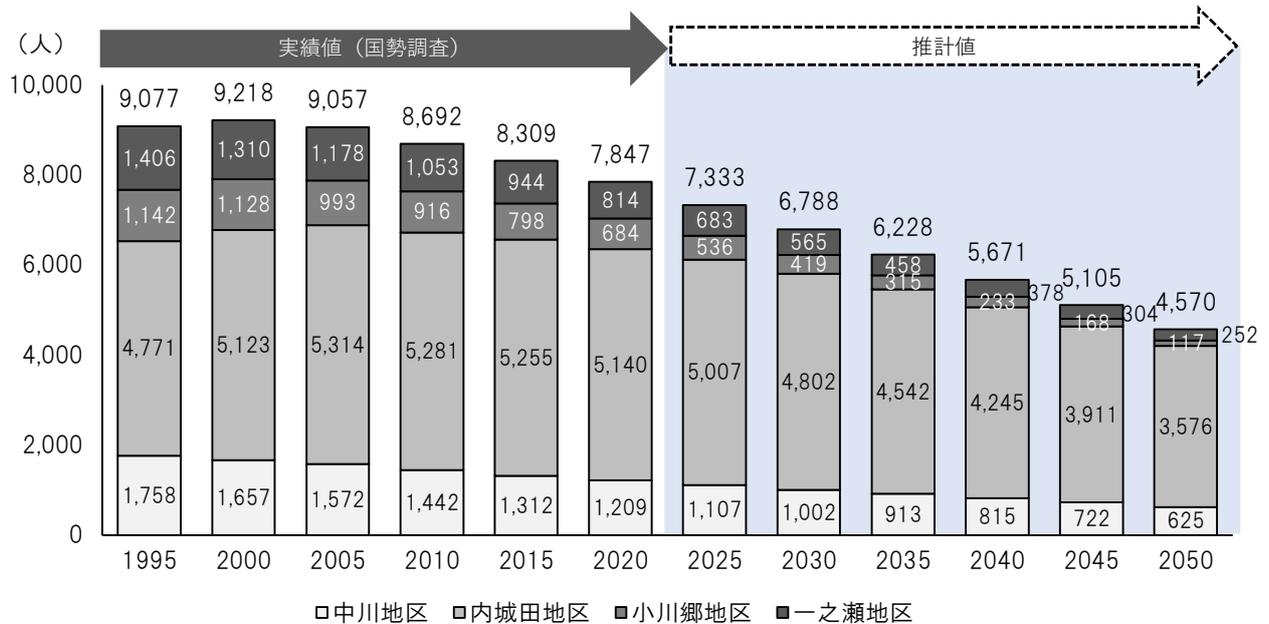


出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

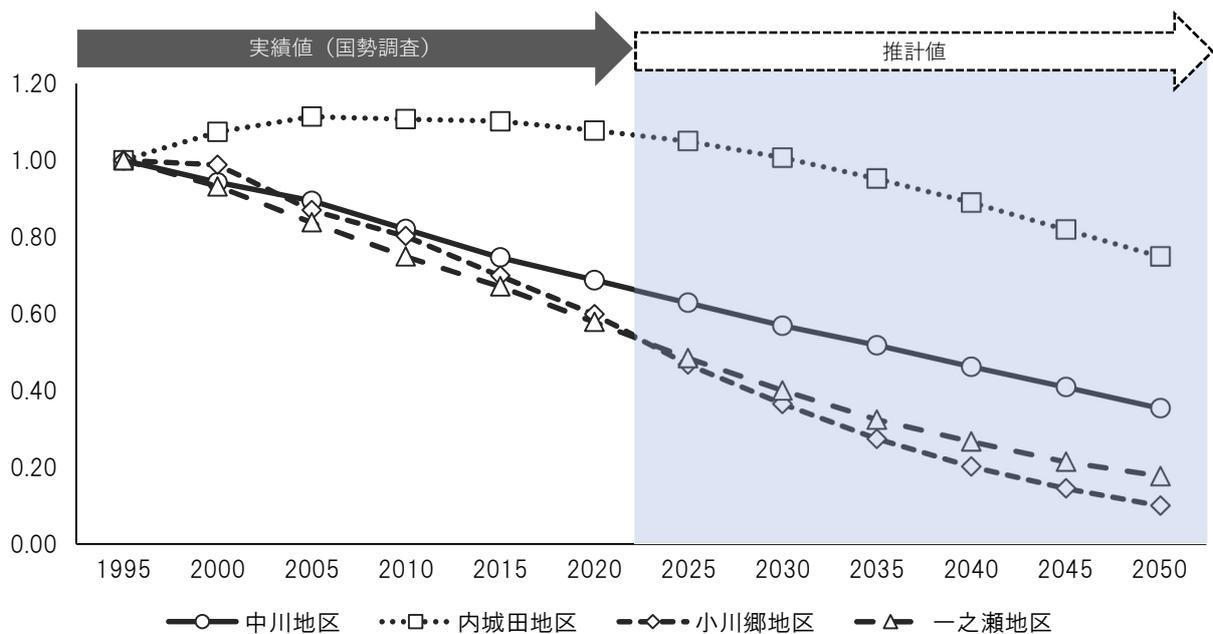
⑤地区別総人口の推移と推計

地区別総人口の推移をみると、最も多い内城田地区では2005年まで人口増が続いていましたが、それ以降は減少傾向に転じています。中川、小川郷、一之瀬地区については1995年より継続的な減少傾向となっています。

図表7 | 地区別総人口の推移と推計



図表8 | 地区別総人口の増減率（1995年を1とした場合）



出典：国勢調査、国土交通省国土技術政策総合研究所

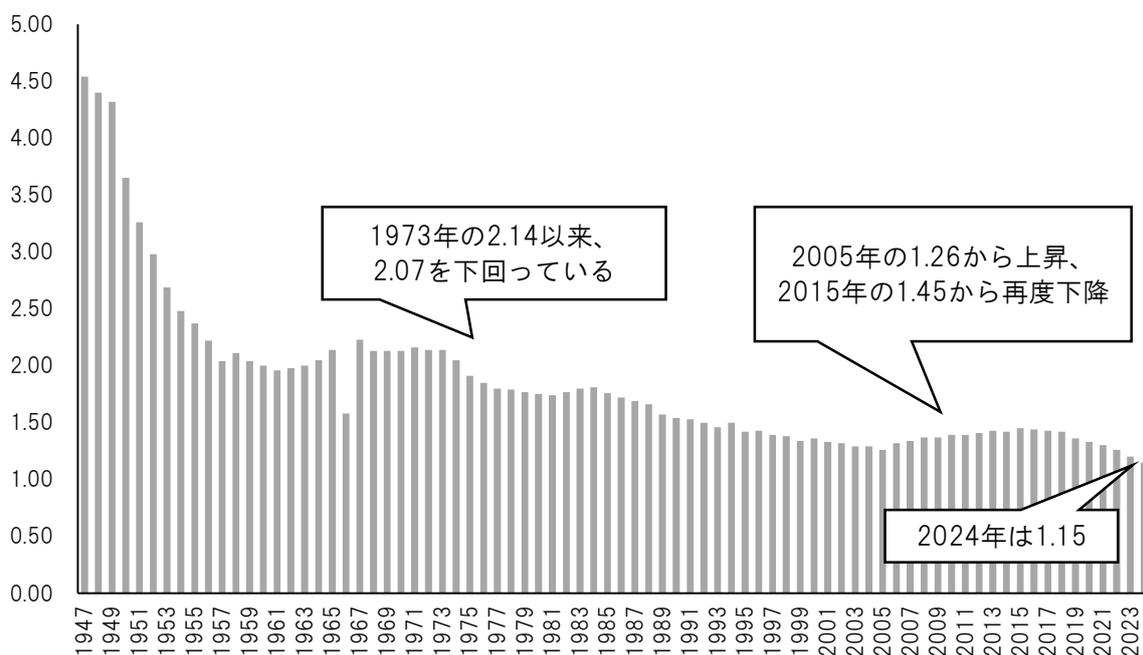
(2) 自然増減の要因分析

① 合計特殊出生率の推移

【全国の推移】

全国の合計特殊出生率は、1973年に人口置換水準（人口を維持するために必要な出生率）である2.07を下回り、減少し続けましたが、2005年の1.26を底に2015年には1.45まで回復しました。しかしながら、それ以降は一貫して減少傾向が継続しており、2024年時点の合計特殊出生率は1.15となっています。

図表9 | 合計特殊出生率の推移（全国）



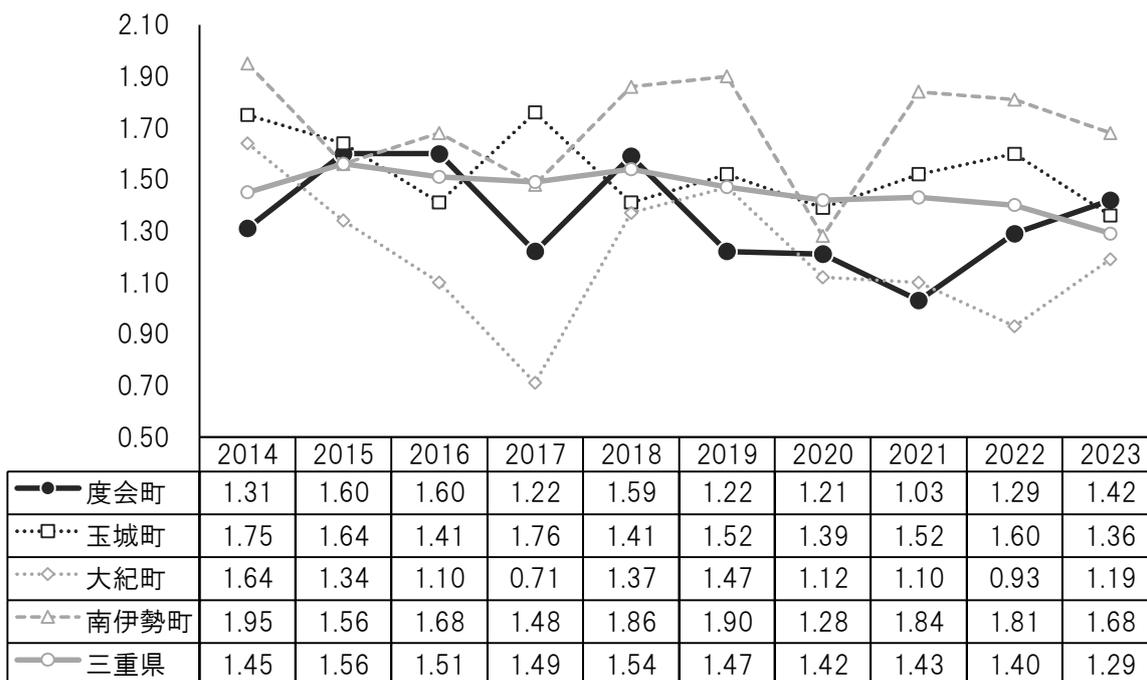
出典：人口動態統計

【度会町の推移】

本町の合計特殊出生率は増減を繰り返しながら推移していますが、2021年以降は上昇傾向が続いており、2023年時点の値は1.42となっています。

また、2023年時点の合計特殊出生率を三重県下自治体と比較した場合、度会町は第4位となっています。

図表10 | 合計特殊出生率の推移（度会町と近隣市町および三重県との比較）



図表11 | 2023年時点での三重県下の状況

| 順位 | 市町名 | 合計特殊出生率 | 順位 | 市町名 | 合計特殊出生率 | 順位 | 市町名 | 合計特殊出生率 |
|----|------------|-------------|----|------|---------|----|------|---------|
| 1 | 南伊勢町 | 1.68 | 11 | 四日市市 | 1.27 | 21 | 大紀町 | 1.19 |
| 2 | 朝日町 | 1.54 | 12 | 亀山市 | 1.26 | 22 | 桑名市 | 1.16 |
| 3 | 川越町 | 1.47 | 13 | 東員町 | 1.24 | 23 | 大台町 | 1.13 |
| 4 | 度会町 | 1.42 | 14 | 津市 | 1.23 | 24 | 紀北町 | 1.12 |
| 5 | 鈴鹿市 | 1.41 | 15 | 伊勢市 | 1.23 | 25 | 伊賀市 | 1.07 |
| 6 | 御浜町 | 1.39 | 16 | 松阪市 | 1.22 | 26 | 紀宝町 | 1.04 |
| 7 | 玉城町 | 1.36 | 17 | 菰野町 | 1.22 | 27 | 志摩市 | 1.00 |
| 8 | 熊野市 | 1.36 | 18 | いなべ市 | 1.21 | 28 | 鳥羽市 | 0.98 |
| 9 | 明和町 | 1.32 | 19 | 名張市 | 1.20 | 29 | 木曾岬町 | 0.65 |
| 10 | 多気町 | 1.31 | 20 | 尾鷲市 | 1.20 | | 県平均 | 1.29 |

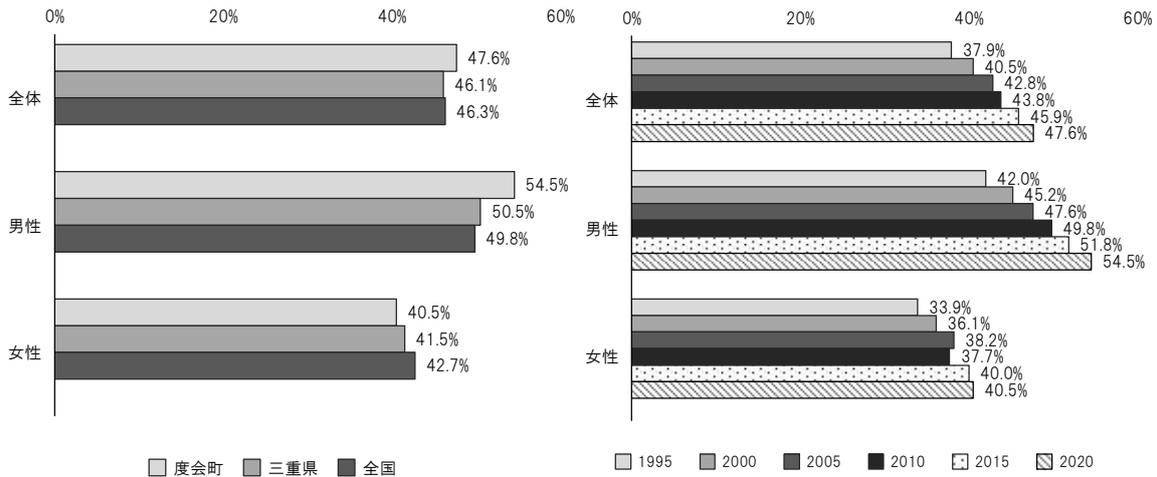
出典：統計でみる三重のすがた

②未婚率の推移

本町の15～49歳での未婚率についてみると、女性未婚率は県および国よりも低くなっている一方で、男性未婚率は県および国よりも高くなっています。また、未婚率は年々上昇傾向にあり、特に男性未婚率の上昇が大きくなっています。

年代別でみた場合、男性は25歳以上、女性は35歳以上で未婚率が上昇しており、晩婚化がさらに進行していることがうかがえます。

図表 1 2 | 15～49 歳の未婚率の比較と推移（全国・三重県・度会町）



出典：国勢調査

図表 1 3 | 直近 10 年間の男女別 15～49 歳未婚率の推移

| | 男性 | | | 女性 | | |
|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| | 2010 | 2015 | 2020 | 2010 | 2015 | 2020 |
| 15～19歳 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 98.9% | 99.5% | 99.3% |
| 20～24歳 | 91.5% | 98.0% | 93.8% | 83.5% | 89.3% | 94.2% |
| 25～29歳 | 73.2% | 69.4% | 76.3% | 59.3% | 52.5% | 60.5% |
| 30～34歳 | 45.3% | 47.9% | 54.2% | 30.1% | 35.8% | 30.2% |
| 35～39歳 | 32.4% | 31.2% | 38.3% | 13.9% | 20.0% | 23.8% |
| 40～44歳 | 20.0% | 28.9% | 30.7% | 8.1% | 9.9% | 17.6% |
| 45～49歳 | 14.1% | 19.2% | 26.8% | 6.3% | 7.5% | 9.7% |
| 15～49歳 | 49.8% | 51.8% | 54.5% | 37.7% | 40.0% | 40.5% |

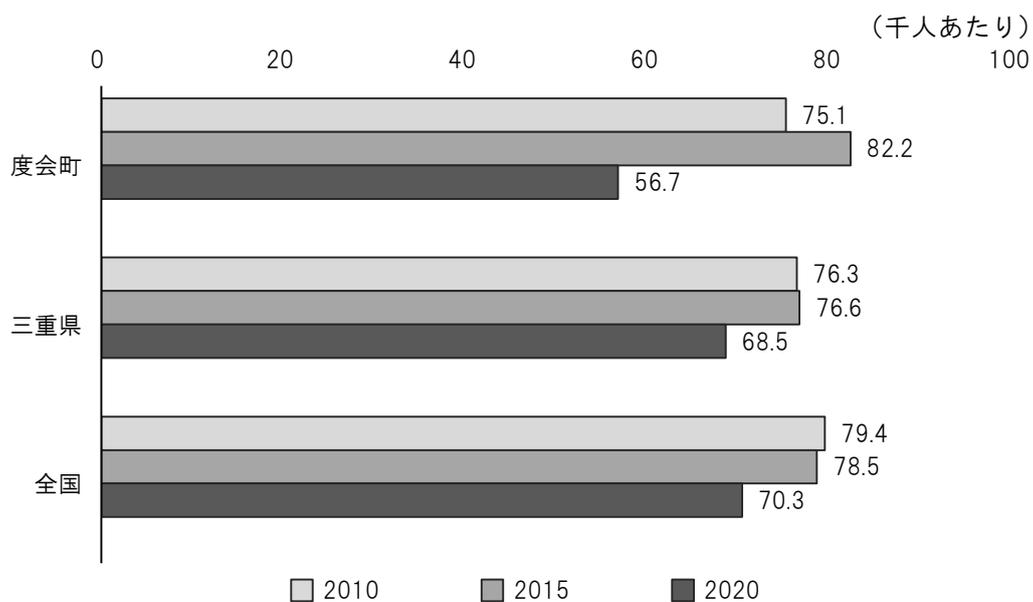
出典：国勢調査

③有配偶出生率の推移

有配偶者の出生率は、国・県ともに2020年にかけて大きく低下しており、本町においても同様の傾向がみられます。

2020年の本町の値は56.7（千人あたり）となっており、国や県と比べて著しく低い水準にあることがわかります。

図表14 | 15～49歳の有配偶出生率の比較と推移（全国・三重県・度会町）



出典：地域少子化・働き方指標

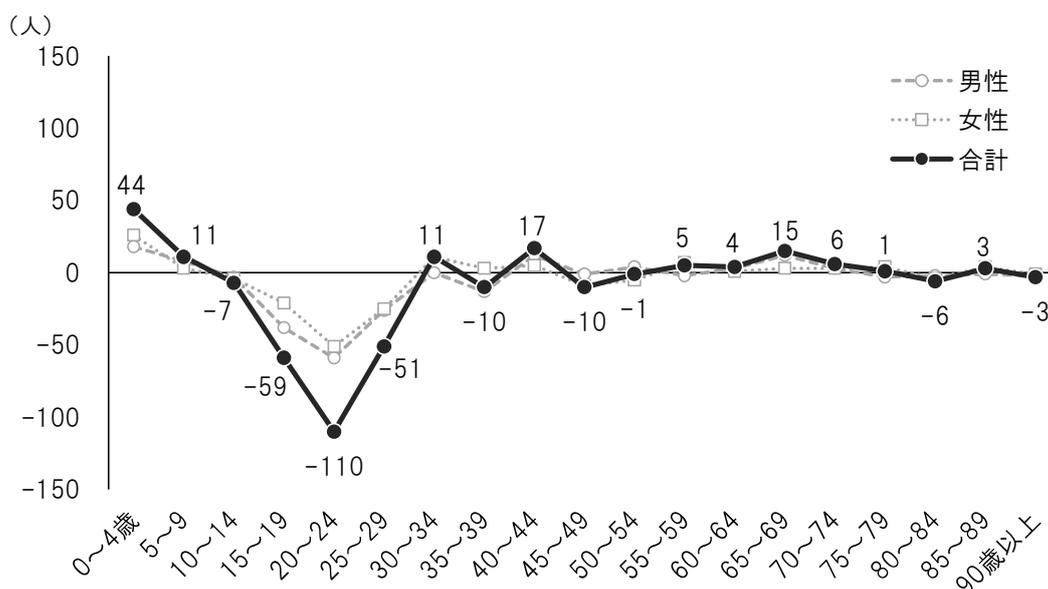
(3) 社会増減の要因分析

①年代別転入転出者数

直近5年間の社会増減の動向を年代別にみると、15～29歳の年代の転出超過が顕著になっている一方で、30～40歳代及び0～9歳の転入超過がみられます。これは、進学や就職を機とした町外への流出が進む一方、ファミリー層が本町に転入してきていることを示しています。

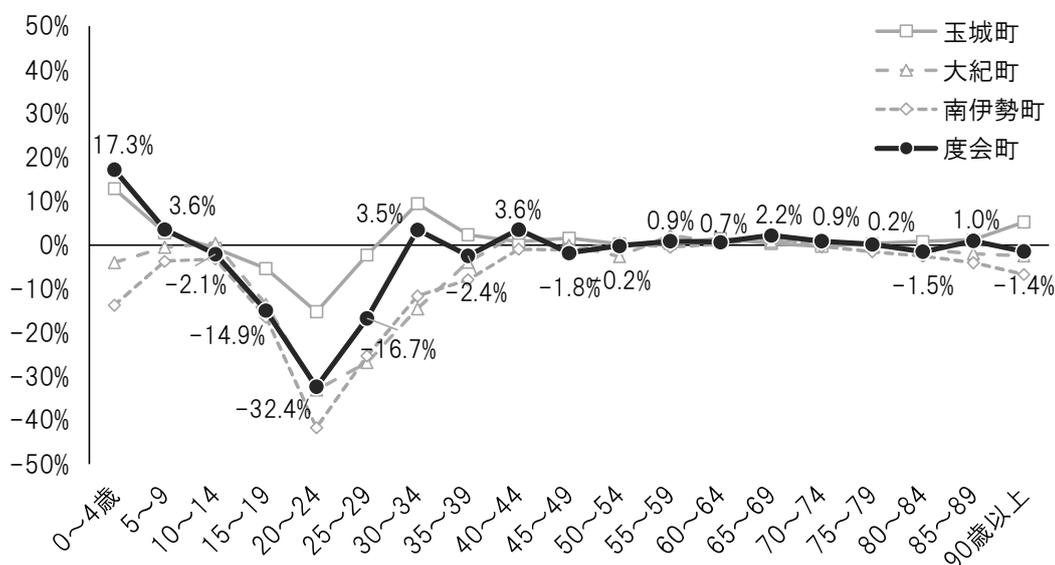
なお、近隣町と人口動向を比較すると、玉城町においてファミリー層の転入が進み、大紀町や南伊勢町で全世代の転出超過が継続していますが、本町はその中間的な傾向にあることがうかがえます。

図表 1 5 | 2020～2024 年における年齢別転入出超過数



出典：住民基本台帳人口移動報告、住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

図表 1 6 | 2020～2024 年における年齢別転入出超過数割合の比較



出典：住民基本台帳人口移動報告、住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査

②転入元・転出先の現状

2024年における社会増減の転入元と転出先をみると、転入者は145人中99人が三重県内から転入しており、転出者は190人中134人が三重県内への転出となります。転入元・転出先ともに伊勢市が最も多く、松阪市や津市、玉城町や南伊勢町間での移動もみられます。

図表17 | 転入元・転出先地域

| 度会町への転入元（2024年） | | 度会町からの転出先（2024年） | |
|-----------------|------|------------------|------|
| 三重県 | 99人 | 三重県 | 134人 |
| 津市 | 17人 | 津市 | 11人 |
| 松阪市 | 12人 | 松阪市 | 32人 |
| 伊勢市 | 25人 | 伊勢市 | 41人 |
| 南伊勢町 | 11人 | 玉城町 | 13人 |
| その他の市町 | 34人 | その他の市町 | 37人 |
| 愛知県 | 13人 | 愛知県 | 14人 |
| その他の県 | 33人 | その他の県 | 42人 |
| 総数 | 145人 | 総数 | 190人 |

出典：住民基本台帳人口移動報告

③昼夜間人口比率（通勤・通学の実態）

2020年における本町の昼間人口と夜間人口を比較すると、夜間人口の方が昼間人口よりも1,705人多く、昼夜間人口比率は78.27%で、三重県下でも特に低い値となっています。本町では伊勢市、玉城町、南伊勢町からの通勤・通学者が多く、伊勢市、松阪市、玉城町への通勤・通学者が多くなっています。

図表18 | 昼間人口と夜間人口の内訳（2020年）

| 昼間人口 | | 夜間人口 | |
|-------------|--------|------------|--------|
| 町外からの通勤・通学者 | 1,001人 | 町外への通勤・通学者 | 2,762人 |
| 町内の通勤・通学者 | 1,856人 | 町内の通勤・通学者 | 1,856人 |
| それ以外 | 3,285人 | それ以外 | 3,229人 |
| 合計 | 6,142人 | 合計 | 7,847人 |

図表19 | 度会町の流入・流出口（2020年）

| 度会町への通勤・通学者（流入人口） | | 度会町からの通勤・通学者（流出人口） | |
|-------------------|-----|--------------------|-------|
| 伊勢市 | 466 | 伊勢市 | 1,318 |
| 玉城町 | 156 | 松阪市 | 378 |
| 南伊勢町 | 69 | 玉城町 | 290 |
| 松阪市 | 67 | 明和町 | 133 |
| 志摩市 | 42 | 津市 | 132 |
| 多気町 | 39 | 多気町 | 125 |
| 明和町 | 37 | 南伊勢町 | 88 |
| 大紀町 | 34 | 大台町 | 55 |
| その他県内他市町 | 64 | その他県内他市町 | 140 |
| 他府県 | 12 | 他府県 | 43 |

図表20 | 三重県市町の昼夜間人口比率順位（2020年）

| | | | | | | | | |
|----|------|--------|----|------|-------|----|------------|--------------|
| 1 | いなべ市 | 110.41 | 11 | 紀北町 | 96.67 | 21 | 桑名市 | 92.75 |
| 2 | 伊賀市 | 106.92 | 12 | 玉城町 | 96.50 | 22 | 大紀町 | 90.20 |
| 3 | 鳥羽市 | 106.01 | 13 | 大台町 | 95.99 | 23 | 名張市 | 88.37 |
| 4 | 四日市市 | 104.70 | 14 | 御浜町 | 95.70 | 24 | 明和町 | 88.27 |
| 5 | 多気町 | 104.49 | 15 | 松阪市 | 95.69 | 25 | 紀宝町 | 87.20 |
| 6 | 尾鷲市 | 102.97 | 16 | 川越町 | 95.19 | 26 | 東員町 | 87.01 |
| 7 | 津市 | 102.85 | 17 | 木曽岬町 | 95.17 | 27 | 菰野町 | 84.61 |
| 8 | 熊野市 | 101.81 | 18 | 鈴鹿市 | 94.65 | 28 | 朝日町 | 83.15 |
| 9 | 伊勢市 | 100.16 | 19 | 南伊勢町 | 94.29 | 29 | 度会町 | 78.27 |
| 10 | 亀山市 | 99.86 | 20 | 志摩市 | 93.40 | | 県平均 | 98.59 |

出典：国勢調査

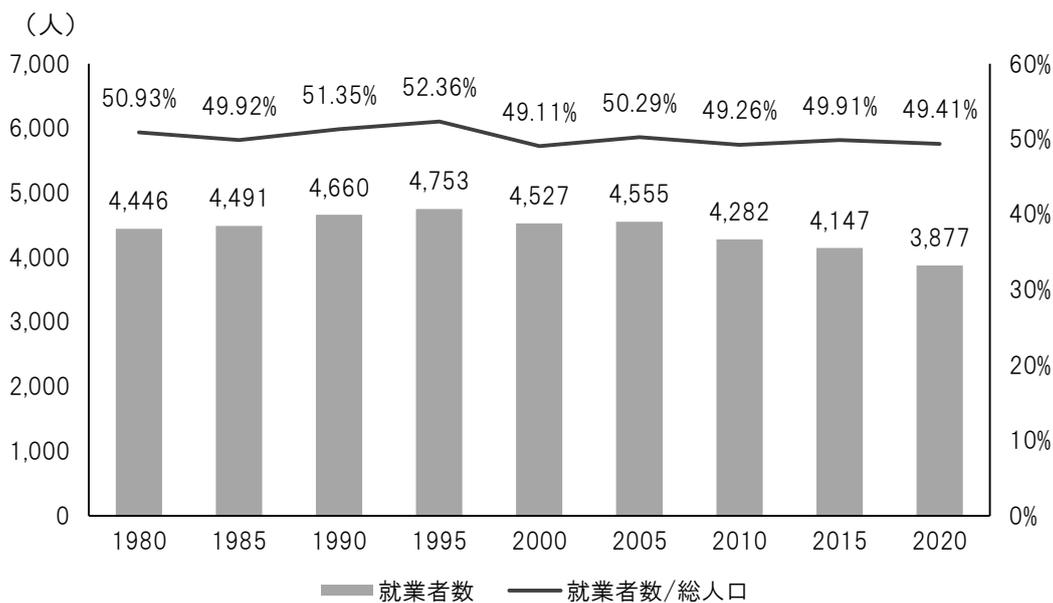
(4) 町内産業の状況

① 就業者の推移

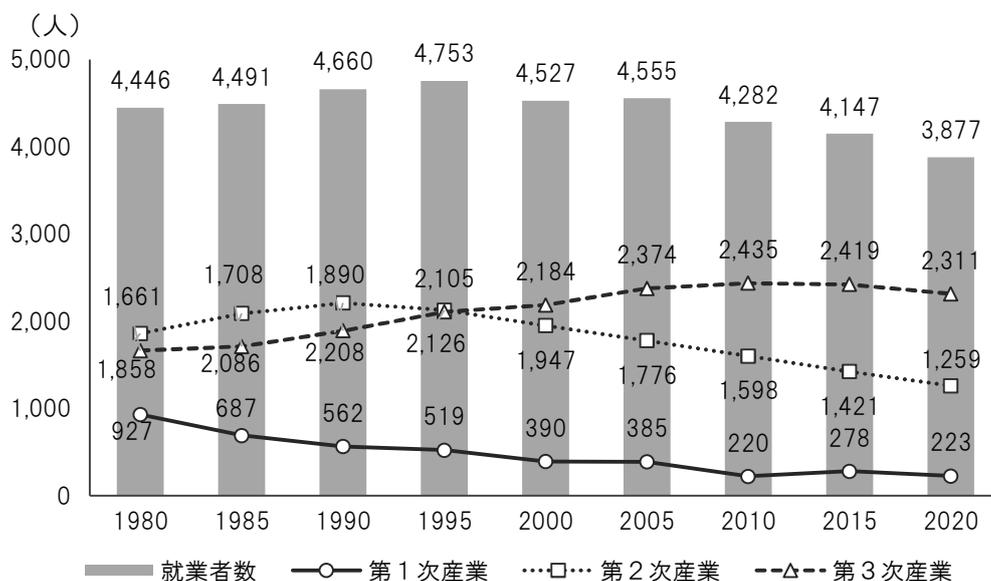
本町の就業者は、1980年から1995年にかけては増加していますが、人口が減少し始める2005年から2020年にかけて約15%減少しています。

産業別の就業者数の推移をみると、第1次産業及び第2次産業は一貫して減少傾向が続いています。一方で、増加傾向が続いていた第3次産業の就業者数もまた減少傾向に転じており、就業者数の全体的な減少がみられます。

図表 2 1 | 就業者数および就業者数・労働人口比率の推移



図表 2 2 | 産業別就業者数の推移

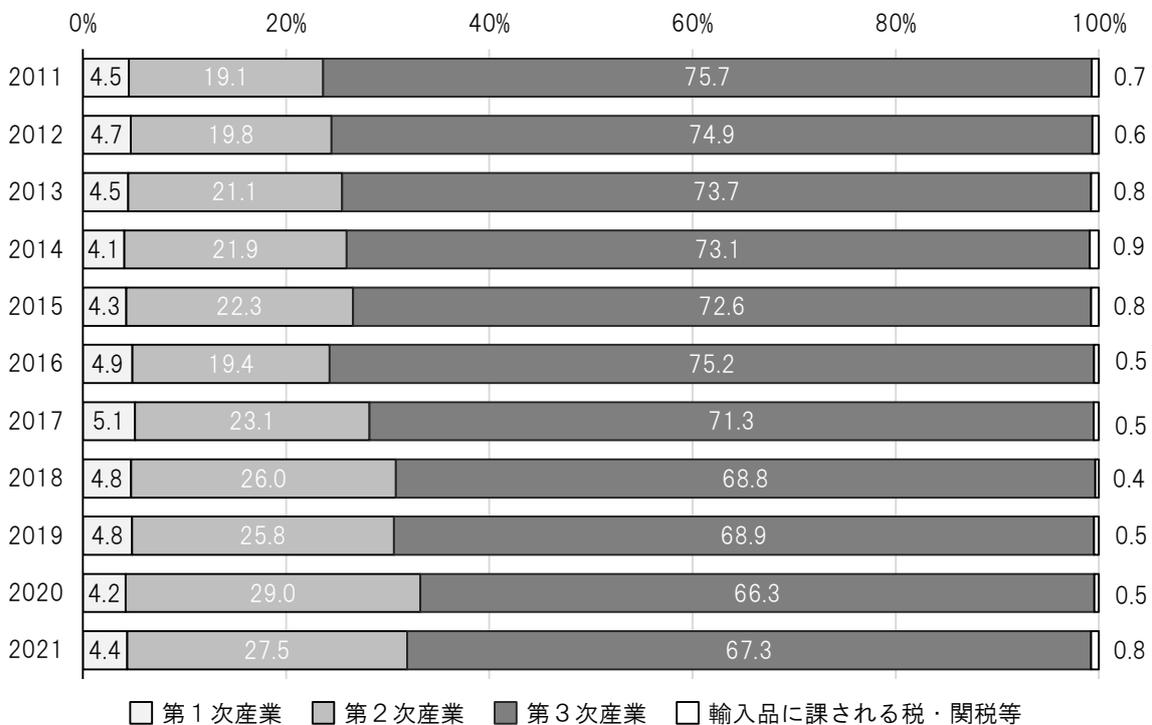
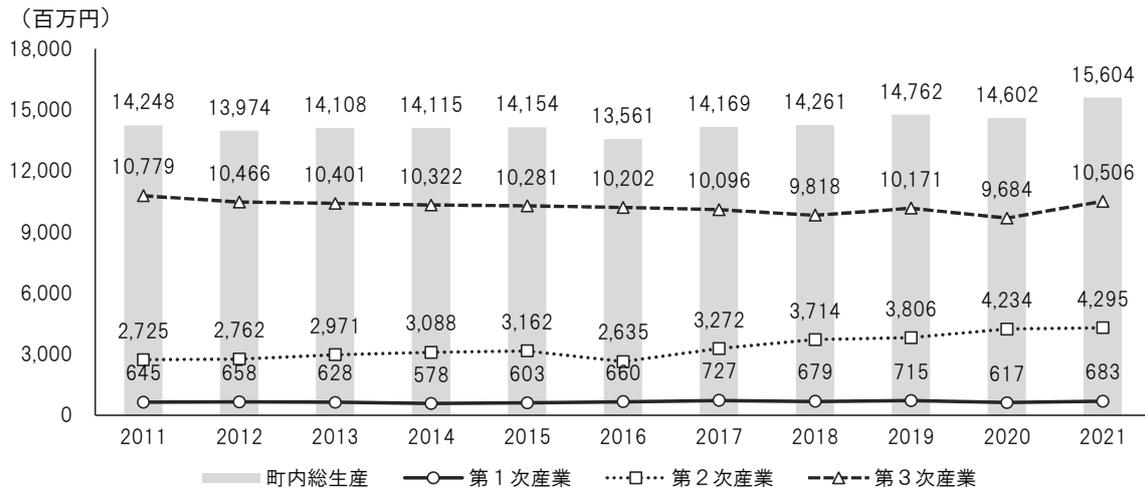


出典：国勢調査

②町内総生産の推移

町内総生産は2016年から増加傾向にあり、2021年時点での総額は約156億円となっています。内訳をみると、第1次産業はほぼ横ばいである一方、第2次産業は2016年以降は継続して上昇傾向となっています。第3次産業は本町の総生産の大部分を占めていますが、近年は緩やかな減少が続き、2018年や2020年には100億円を下回る水準となりましたが、2021年には再度増加に転じています。

図表23 | 町内総生産の推移と内訳

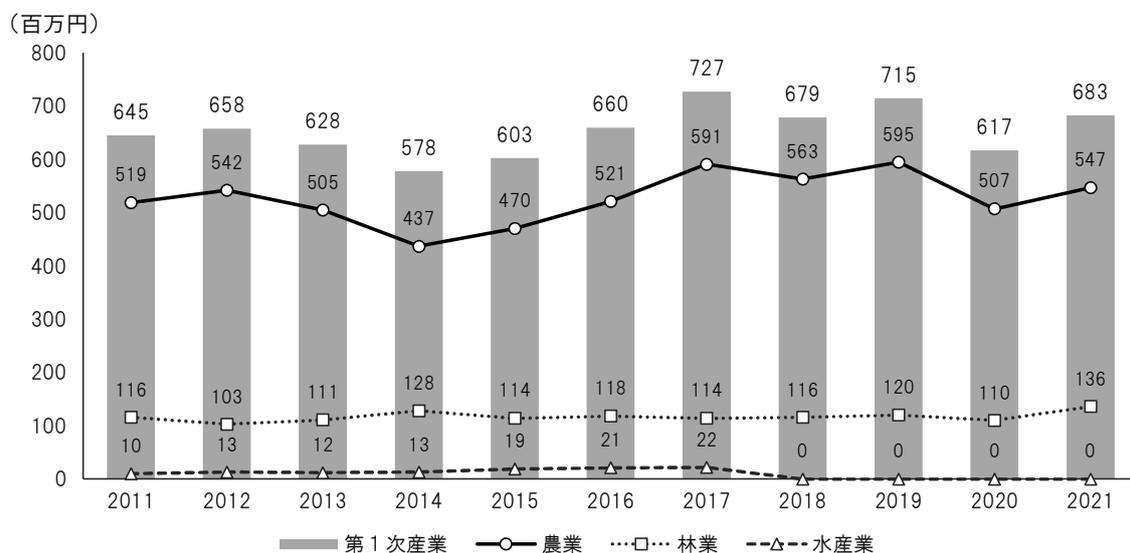


出典：三重県市町民経済計算

【産業別町内総生産】

本町の第1次産業における総生産の大部分は農業が占めており、増減を繰り返しながらもほぼ横ばいで推移しています。林業もまた横ばいで推移していますが、2021年の総生産額は約1.4億円で、過去10年と比べて特に高い水準となっています。

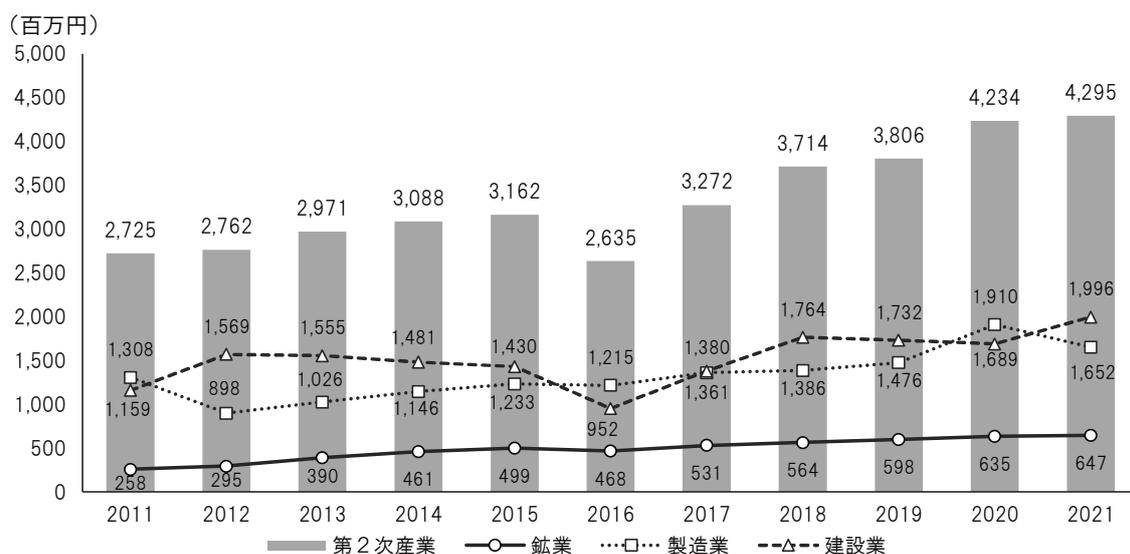
図表24 | 第1次産業町内総生産の推移



出典：三重県市町民経済計算

第2次産業は近年総生産を伸ばしている領域であり、全体としては建設業と製造業の増加傾向がその背景となっています。また、近年は鉱業も総生産が増加しており、2021年の総生産額は約6.5億円で、2011年と比較して約2.5倍の水準となっています。

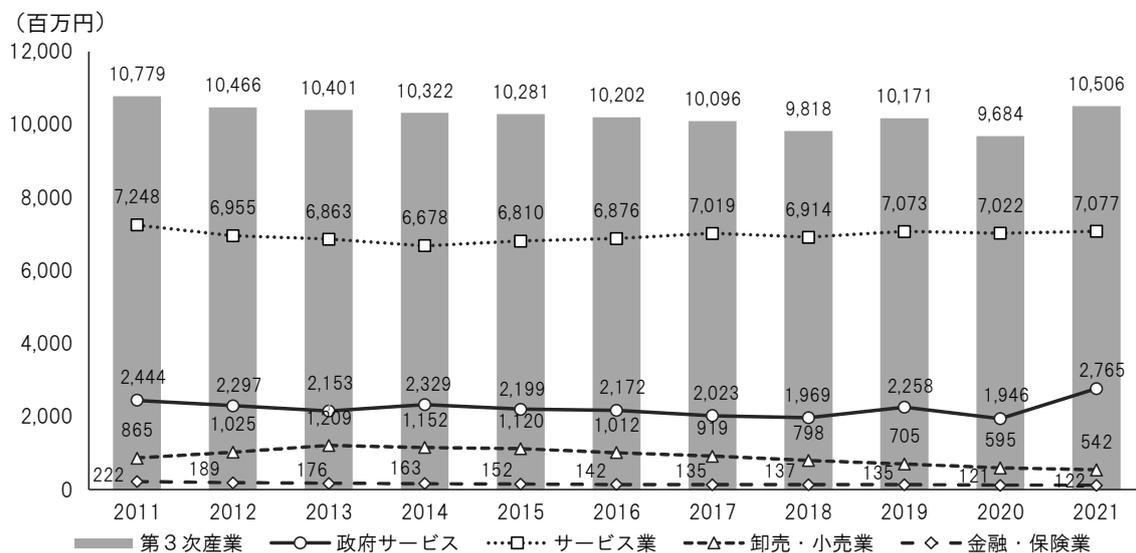
図表25 | 第2次産業町内総生産の推移



出典：三重県市町民経済計算

第3次産業では、政府サービスとサービス業が大きく、二つのセクターで第3次産業の約6割を占めています。2020年以前は全体として減少傾向にあり、サービス業の総生産がほぼ横ばいである一方、卸売・小売業の総生産は減少が続いています。

図表26 | 第3次産業町内総生産の推移



出典：三重県市町民経済計算

※政府サービスには、中央政府（国出先機関）、地方政府（県、市や町）などの行政機関のほか、社会保障基金や事業団の一部など特定の非営利団体が含まれる。

(5) 将来推計からみる人口動向の分析

第2期人口ビジョン策定後の2023年、国立社会保障・人口問題研究所は2020年の国勢調査結果に基づいた「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」(以下、「社人研推計」といいます。)を公表しています。

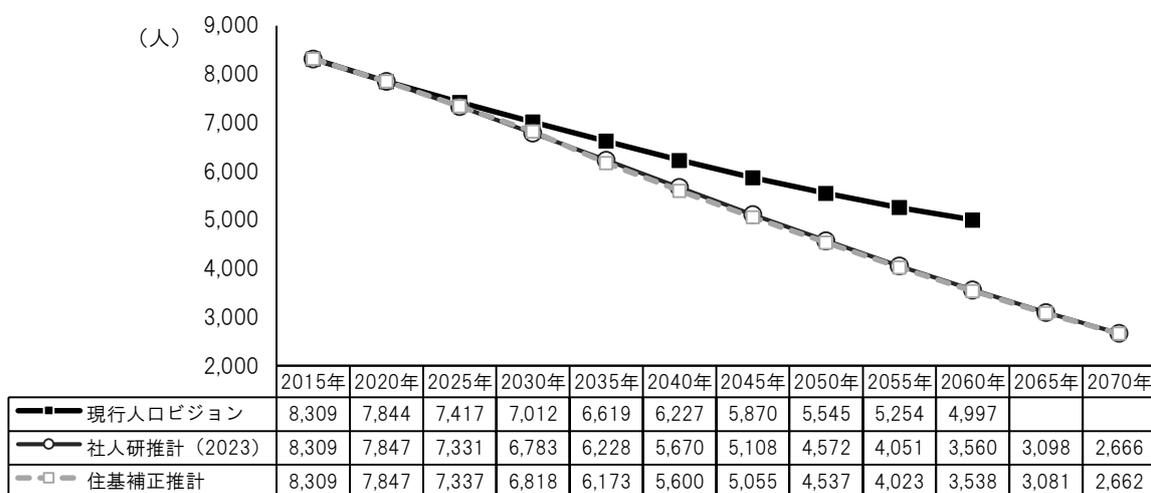
この社人研推計が現時点で入手可能な最新の推計人口である一方、2020年以降の人口移動のトレンドは反映されていないことより、本町の住民基本台帳人口を用いて補正を行った社人研推計を独自に作成し、現行ビジョン及び社人研推計と比較分析を行います。

図表27 | 将来人口推計の条件

| 推計の種類 | 条件 | 推計に使用した人口データ |
|-------------|--|---|
| 現行人口ビジョン | 「第2期度会町人口ビジョン」と同様の条件(2030年までに合計特殊出生率が1.8まで回復、2050年までに社会動態が移動均衡状態まで改善+毎年1家族の転入) | - |
| 社人研推計(2023) | 国立社会保障・人口問題研究所が2023年に公表した本町の将来人口推計結果 | 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」 |
| 住基補正推計 | 社人研推計(2023)を基準に、本町の2020~2024年の人口動態を加味して補正した推計結果 | 度会町住民基本台帳人口(2020~2024年、各年10/1時点) |

総人口については、2030年頃から、現行人口ビジョンそれ以外の推計で乖離が生じ始めています。2030年以降の推計条件に違いがあることが要因として考えられますが、2025年時点でも現行人口ビジョンとそれ以外の推計で若干の差が生じており、目標人口に沿った人口減少対策はうまく進んでいない可能性が想定されます。

図表28 | 総人口の比較

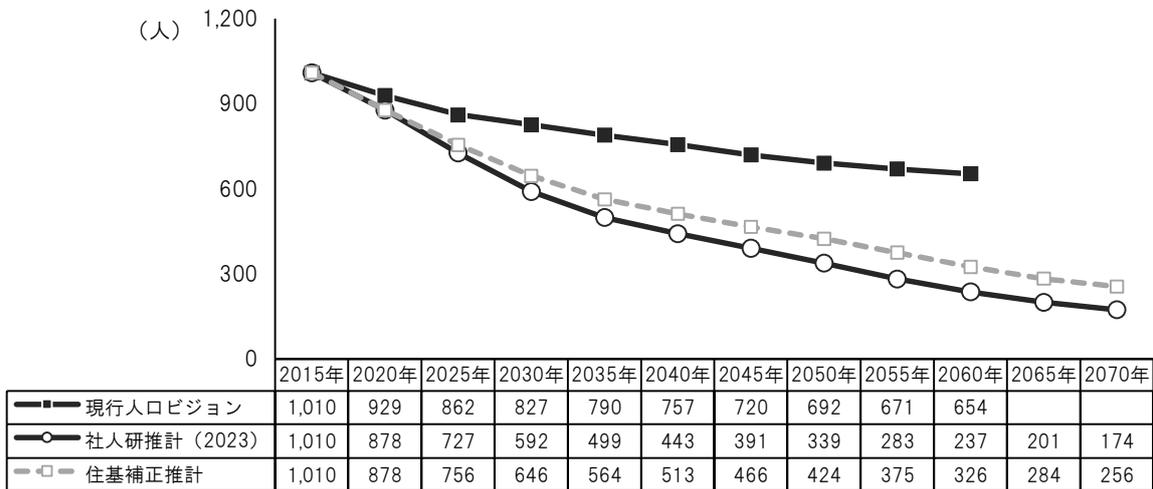


※現行人口ビジョンは2060年までの推計結果となっています。

年少人口については、現行人口ビジョンの値が大幅に上回っています。現状として、現行人口ビジョンの推計時に設定した合計特殊出生率（2030年時点で1.8）に届いていないことが要因として考えられます。

なお、住基補正推計が社人研推計よりも高い値となっている背景については、子どもの転入が多くなっている近年の社会動態が反映されているものと考えられます。

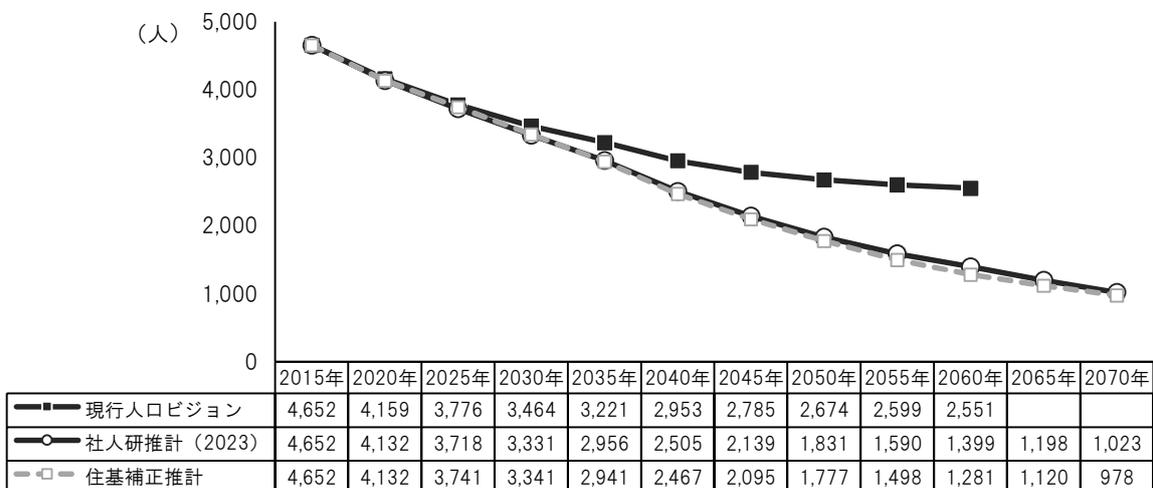
図表 29 | 年少人口の比較



生産年齢人口については、2025年頃までは各推計はほぼ同水準ですが、2030年以降より差が広がっています。

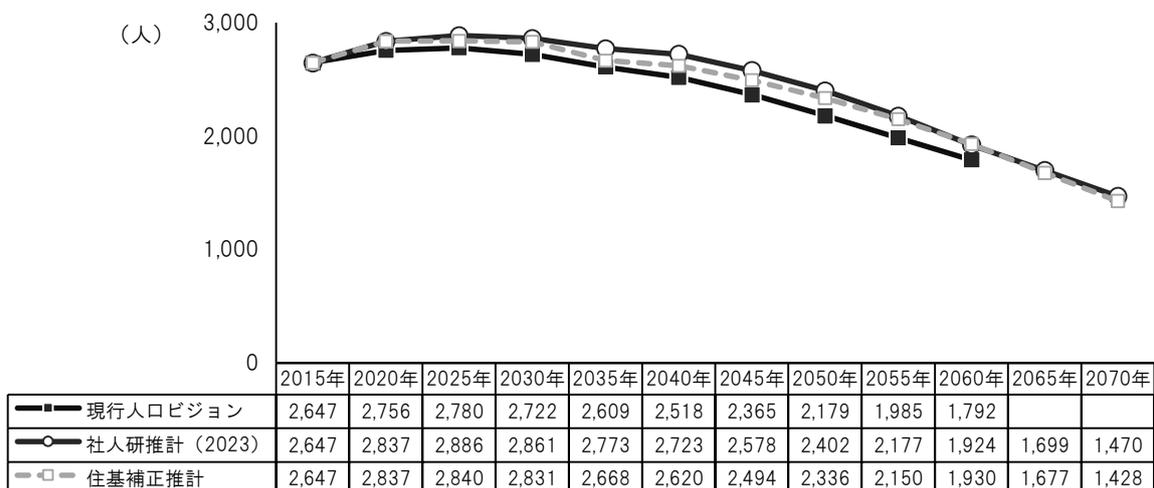
現行人口ビジョンでは2050年の移動均衡状態（転入と転出の合計が0となる状態）に向かって社会動態が改善する条件を設定していましたが、社人研推計及び住基補正推計はおおよそ現在と同じ状況が継続する条件となっているため、現行人口ビジョンより差が生じているものと考えられます。

図表 30 | 生産年齢人口の比較



老年人口については、各推計はほぼ同水準ですが、現行人口ビジョンが他の2推計と比べて若干老年人口が少なくなっています。想定される要因として、社人研推計及び住基補正推計で採用している生残率は平均寿命の延伸が加味されており、死亡数が若干減少している可能性を挙げることができます。

図表 3 1 | 老年人口の比較



(6) 現状分析のまとめ

①自然増対策について

本町では、出生数の減少が続いており、自然増減は長年にわたりマイナスとなっています。合計特殊出生率は 1.42 と県内では上位ですが、人口維持に必要な水準には届いておらず、特に男性の未婚率の高さや晩婚化の進行が課題です。また、有配偶者間の出生率も全国や県より低く、結婚後の出産・子育てへの支援も必要とされています。

こうした課題に対応するため、若年層への結婚支援を強化するとともに、出産・子育てへの切れ目のない支援体制の整備が重要です。具体的には、婚活イベントや結婚新生活支援金の拡充、産後ケアや子育て相談の充実、保育料助成などを通じ、子育てしやすい環境を一層充実させる必要があります。さらに、ライフプラン教育やキャリア支援により、若い世代が将来を前向きに描けるよう後押ししていく支援も必要です。

②社会増対策について

本町では、15～29 歳の若年層を中心に転出超過が続いており、進学・就職を機に町外へ移る傾向が強まっています。一方で、30～40 歳代や子どもの転入が見られ、生活環境や子育て支援の評価がうかがえます。また、昼間人口が夜間人口より大幅に少ないことから、町内就労機会の不足も課題となっています。

これらの課題に対応するため、U・I ターン支援や定住促進策の充実が必要です。地元や近隣市町の企業と連携した就職支援、移住者向け情報発信、住宅支援制度の整備に加え、子育て支援の充実などの取り組みを通じて、伊勢志摩圏域におけるベッドタウン的な性格を有した、住み心地の良いまちづくりを進めていくことが重要となります。

3 度会町における人口の将来展望

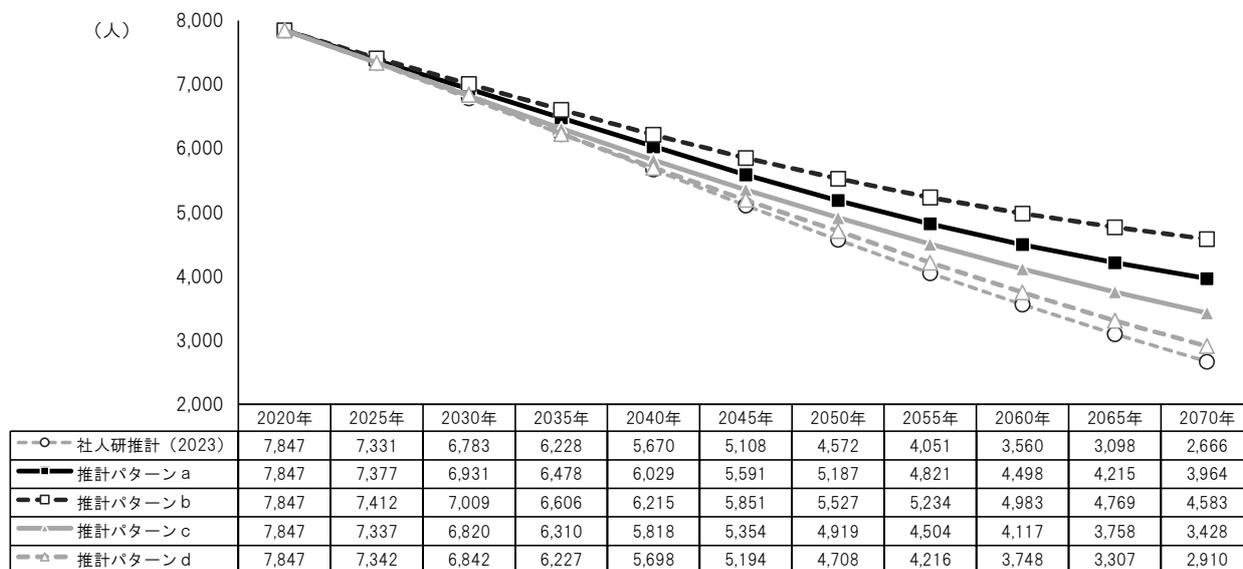
(1) 推計パターンの考え方

図表 3 2 | 推計パターンの一覧

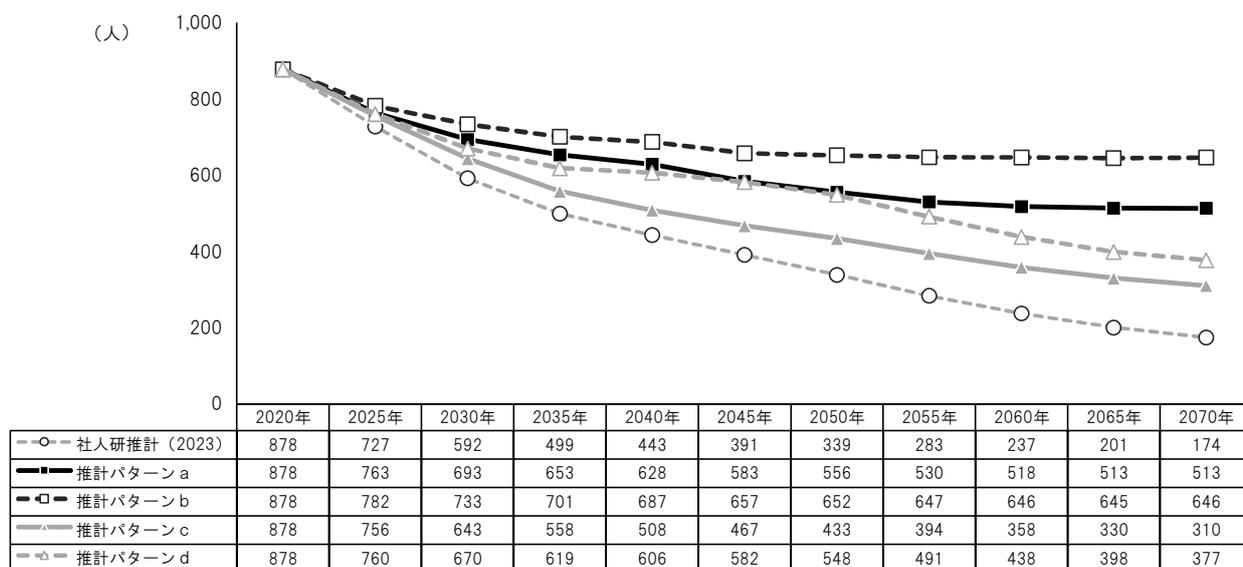
| | パターン a (前回と同条件) | パターン b (前回と同目標) | パターン c (移動均衡実現) | パターン d (出生率向上) |
|-------|--|--|--|--|
| 概要 | 最新の社人研推計(2023年)をベースに、現行人口ビジョンにおいて採用した条件に基づいて推計 | 最新の社人研推計をベースに、現行人口ビジョンが2060年に目標としていた人口を達成する条件で推計 | 最新の社人研推計をベースに、2060年時点で人口4,110人を達成する条件で推計 | 最新の社人研推計をベースに、2060年時点で人口3,700人を達成する条件で推計 |
| 出生の仮定 | 合計特殊出生率が2030年までに1.80(希望出生率)まで上昇し、それ以降は1.80として一定の値で推移すると仮定 | 合計特殊出生率が2030年までに1.80まで上昇し、それ以降は1.80として一定の値で推移すると仮定 | 合計特殊出生率は社人研仮定値(1.32~1.41)を採用 | 合計特殊出生率が2040年までに1.80まで上昇し、それ以降は1.80として一定の値で推移すると仮定 |
| 死亡の仮定 | 最新の社人研推計において仮定値として設定された生残率を採用 | | | |
| 移動の仮定 | 純移動率が2050年時点で均衡状態(ゼロ)になるよう、2020~2045年の純移動率を漸増として調整。 毎年1世帯(30歳代夫婦と10歳代子ども1~2名)の転入を想定 | 純移動率が2040年時点で均衡状態(ゼロ)になるよう、2020~2035年の純移動率を漸増として調整。 毎年2~3世帯(30歳代夫婦と10歳代子ども1~2名)の転入を想定 | 純移動率が2050年時点で均衡状態(ゼロ)になるよう、2020~2045年の純移動率を漸増として調整 | 最新の社人研推計において仮定値として設定された純移動率を採用 |

(2) 推計パターンの比較

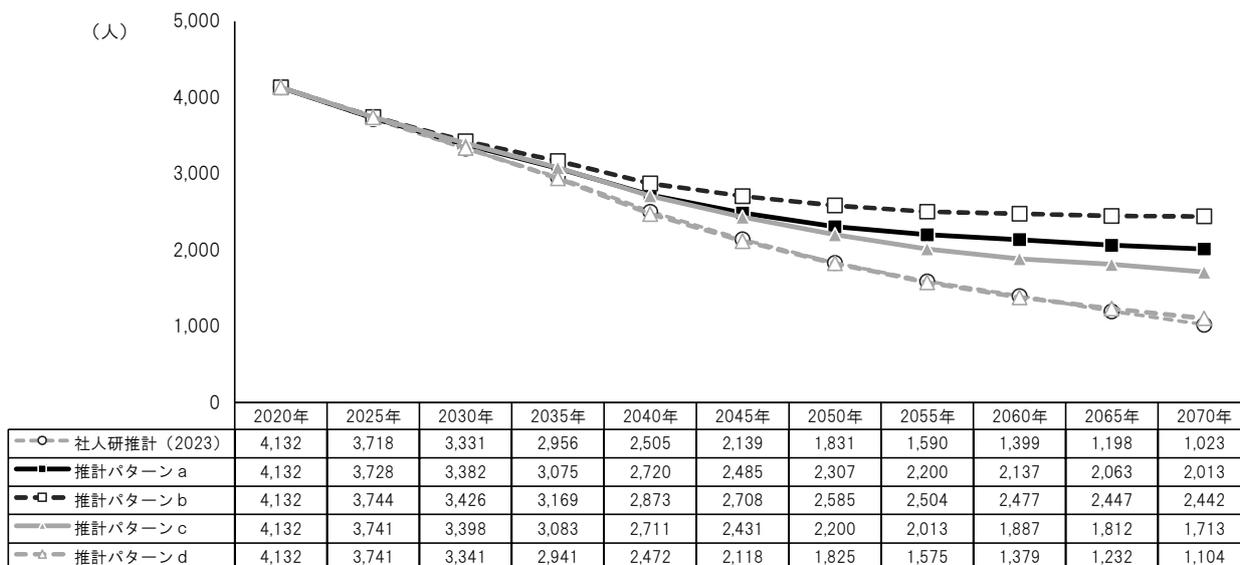
図表 3 3 | 総人口の比較



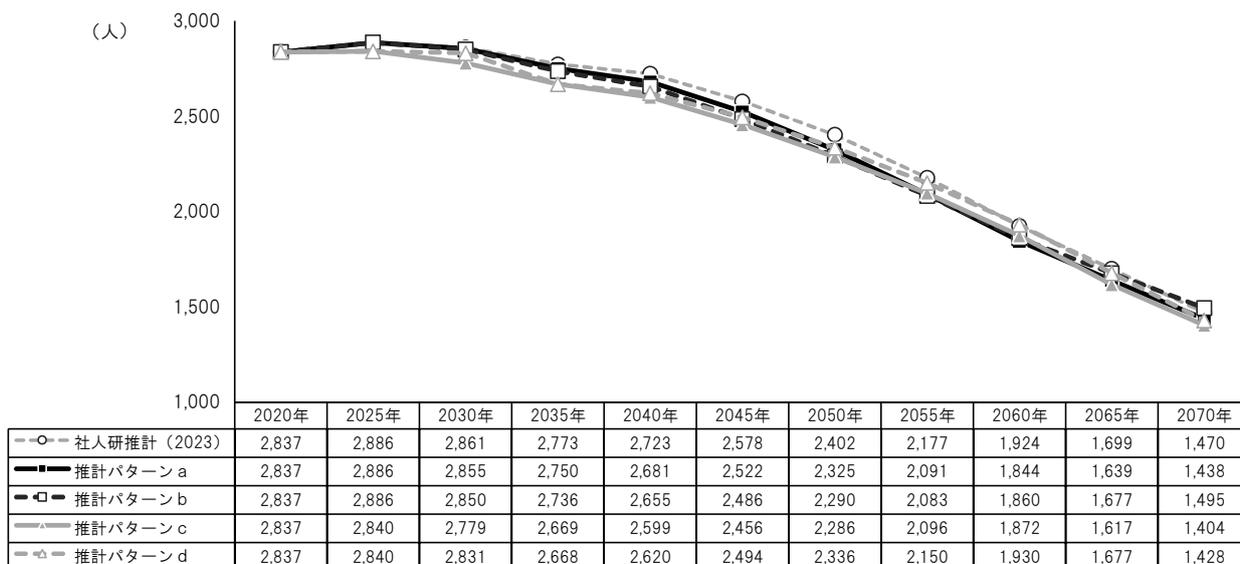
図表 3 4 | 0～14 歳人口の比較



図表 3 5 | 15～64 歳人口の比較



図表 3 6 | 65 歳以上人口の比較



(3) 将来人口のめざす方向

本町の将来人口のめざすべき方向性として、施策による人口シミュレーションのパターンCで設定する以下の条件の到達をめざし施策を実施することで、人口減少の影響を軽減することに努めます。

【自然減の抑制】

- ・現状と同程度の水準（社人研が公表する1.3～1.4程度）を維持

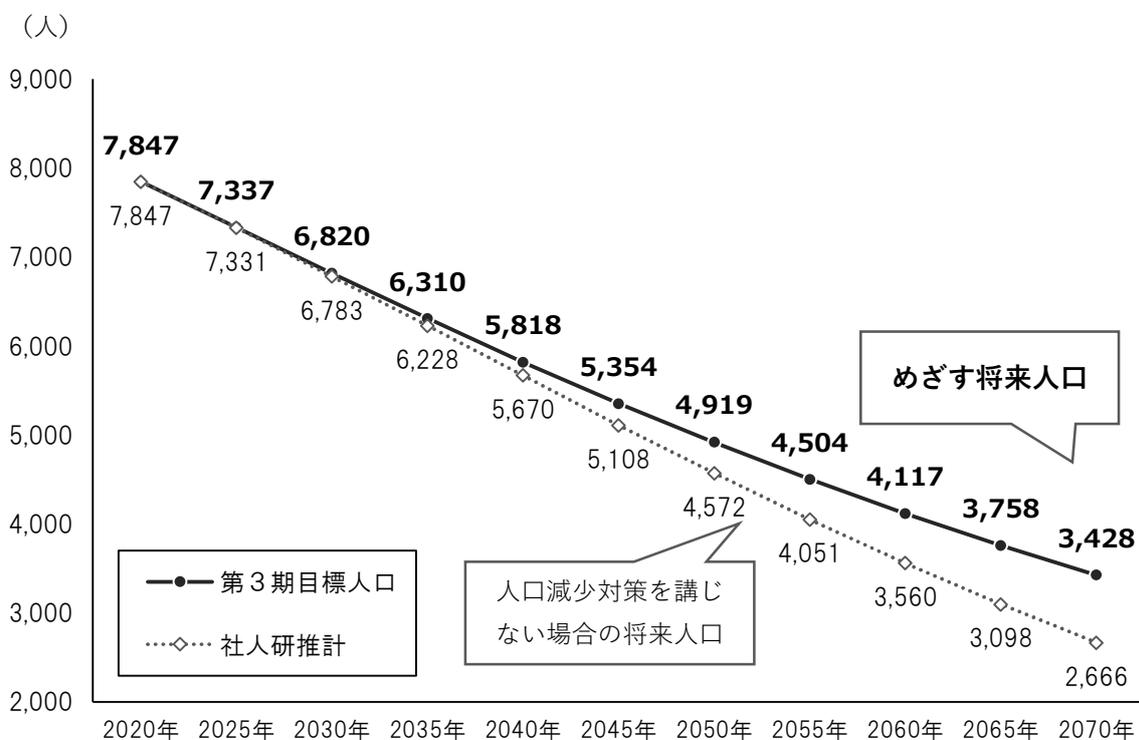
【社会減の抑制】

- ・2050年までに転入と転出の差が均衡状態（ゼロ）になるよう社会動態を改善



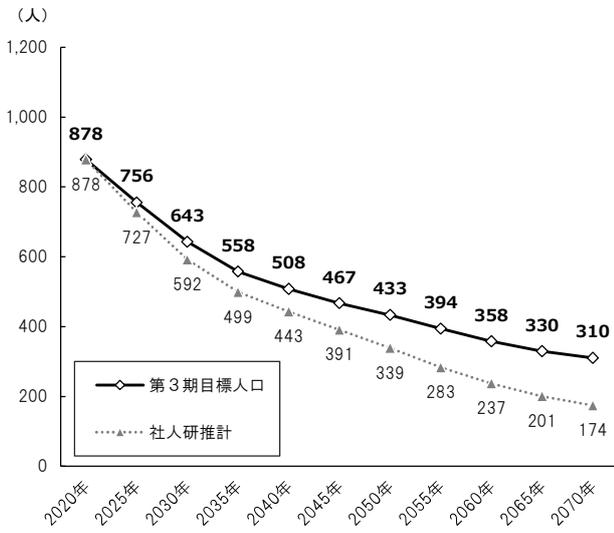
2060年で約4,100人、2070年で約3,400人の人口水準を維持

図表37 | 度会町の将来人口のめざす方向

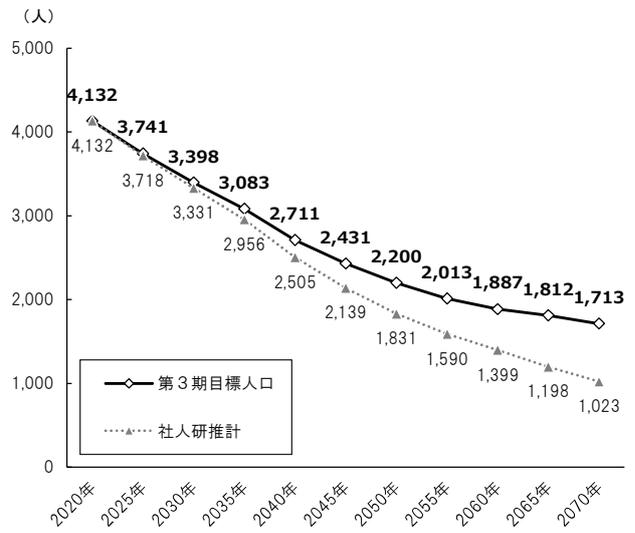


図表 3 8 | 年齢別の将来推計

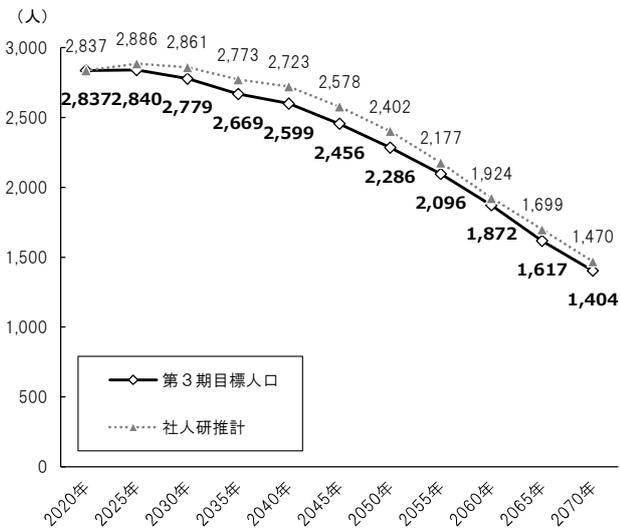
▼15 歳未満人口の将来推計結果



▼15～64 歳人口の将来推計結果



▼65 歳以上人口の将来推計結果



▼75 歳以上人口の将来推計結果

